

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和2年7月14日 ～ 令和3年3月12日
調査研究事項	<p>I 教育課程に関すること</p> <p>II 広報・相談体制の充実に関すること</p> <p>VI その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p>
調査研究のねらい	<p>【布施中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「確保法」施行以来、「学び直し」の生徒も入学してきた。 ・東大阪市教育委員会が策定した夜間学級再編整備計画によりこれまでの長栄中学校夜間学級と布施中学校の夜間学級が合わさり平成31年4月からスタートした。 ・新渡日の外国人の入学(特に中国・ネパール人、ベトナム人生徒)が増えてきている。 ・依然として未就学の高齢者も在学している。 <p>以上のことを踏まえ、様々な状況を抱える生徒に対応できるよう教育課程の構築を目指す。具体的には昼の中学生と同じ9教科の学びを軸に、進路実現に対応した授業や、一人ひとりの学習経験などを踏まえた個別のニーズに応じた授業を工夫しながら展開していく。</p> <p>また、新しい場所に開校した新校舎の学習環境整備をすすめる。新校舎は以前夜間学級があった旧太平寺中学校跡地に建設されたこともあり、古くからの地域の方々には夜間学級への理解もあるが、より広く地域に知ってもらうために開級式には校区の3連合自治会長にも出席いただき、食文化交流会や芸術鑑賞会などの取り組みについても案内をしてきた。そして、夜間学級の開級と同時に地域の方々にグラウンド、体育館の施設開放を行い、投票所としても夜間学級の多目的室も利用されている。学校内外の掲示板や夜間中学校祭り、新入生募集のチラシ配布など、地域に広く夜間学級の存在をアピールしたい。</p> <p>【意岐部中学校】</p> <p>I 教育課程の編成や指導上の工夫・改善について</p> <p>義務教育未修了者、日本語理解の十分でない外国籍生徒、既卒の学び直し生徒と多様な生徒が在籍している。一人ひとりの学習経験や渡日してからの年数など、様々であることから生徒の状況を的確に把握し、生徒支援方法・方策の工夫改善、日本語指導の必要な生徒への学習カリキュラムやおとなの中学生に適したカリキュラムの研究を進める。</p> <p>II 広報や相談体制について</p>

	<p>新しくできた夜間学級を広く周知する方策および学びたいと思っている人への相談体制の構築を進める。</p> <p>VI 教育活動を充実させていくために 近畿や全国の夜間中学校との交流や情報交換を通じて日常の授業や行事などの特別活動の在り方についての研究を進める。また、意岐部中学校ブロックの小中学校との交流や同ブロックへの発信を通じて生徒にとっての豊かな学びを考える。</p> <p>外国人生徒の母語対応の充実やその学習補助の効果的な方策を研究する</p>
調査研究の成果	<p>【布施中学校】</p> <p>I. 教育課程に関すること</p> <p>毎月1回、教科ごとの研究・研修を実施し、生徒の実態に合わせた教材研究及び教科の知識・技能についての能力向上を目指すことができ、生徒情報の交換と生徒の生活背景をについて理解を深める研修会を実施し、個々の生徒に寄り添った学習を行うことができた。また、意岐部夜間中学との合同研修会を実施し、東大阪市の夜間中学として、多種多様化する生徒の学びの目的を果たすための教科研究、教材研究を行うことができた。さらに多国籍化する在籍生徒に合わせたカリキュラム編成について考え、特に、基礎の日本語指導についての課題について改善しながら進めていくことができた。</p> <p>学習環境、校舎周辺の環境整備などについて、教職員全体が意識を高め、改善に向けての活動を積極的に行い、夜間中学の「学び」や学習に役立つ掲示について、学校の学習活動や行事についての掲示物を充実させ、取り組みの意義や振り返りを行い、生徒の活発な活動を視覚化することができた。さらに、校舎周辺の緑化活動を活発に行い、緑豊かな学習環境を整えることができ、生徒の意識を高めることができた。</p> <p>IV. その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p> <p>地域とのつながりを深めるために、校外掲示板を積極的に活用して学習の取り組みの様子や生徒募集に関する情報の発信に努めた。また、芸術鑑賞会などの行事については、地域の自治会へも案内を行い、夜間中学の活動を知っていただく機会となった。</p> <p>夜間中学生の「表現する力」「発信する力」を育むための学習発表会に取り組み、生徒が取り組みへの達成感を得て、学びへの意識を高めることができた。</p> <p>多国籍の生徒が安心して学べる環境づくりのために、通訳をともなった対応ができるよう勤めることができ、個々の生徒の状況に寄り添った</p>

指導ができた。

【意岐部中学校】

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止措置により年度当初から臨時休業となった。6月から再開され、生徒は2か月の空白を埋めようと一生懸命に学習に取り組んできた。教職員は2か月の臨時休業の間に、研修や会議を重ね、再開後の体制を整え、調査研究の狙いに到達するための方策を練ってきた。

I 教育課程に関すること

- ・校内研修会、教科研究会、授業研究会の定期開催

毎月1回、生徒の情報交換及び共有化を行った。

毎月1回、教科指導方法の研修と授業公開を行った。

- ・布施夜間中学との合同研修

2か月に1回および夏季1日合同研修を実施した。

- ・近畿夜間中学校連絡協議会の各教科部会へ毎月参加し、教材研究を行った。

会議・研修などについては、計画通りに進めることができた。

生徒情報の共有化から見えてきたことは、あらためて一人ひとりの学習経験、生活背景、夜間中学に対する目的の多様化であり、そのことを前提とした教科学習、日本語学習、カリキュラムの工夫・改善の創造であった。学び直しの受験生徒に対して「0時間目」「抽出授業」を設けて教職員全員で分担した。生徒の通所している作業所との連携し生徒支援を進めた。

II 広報・相談体制の充実に関すること

- ・開設して1年の意岐部夜間中学を知ってもらうためのオープンスクールは新型コロナの感染拡大防止対策が厳しく実施できなかった。

- ・感染防止対策を取りながら、校内作品展を1か月間行い、近隣の学校や地域への広報に努めた。

- ・生徒募集チラシについては、市内の大型商業施設での配架をすることができた。

- ・本市の多文化共生情報プラザを活用して、学校だよりの多言語化(4か国語)を進めた。多言語の学校だよりをホームページに掲載し広報活動に努めた。

VI その他夜間中学における教育活動充実に関すること

- | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・意岐部中学校ブロックの小中学校との交流を行った。小学校3年生、5年生、中学校1年生が夜間学級を訪れ、夜間中学での生徒の学びに触れることができた。・近畿夜間中学校研究会や全国夜間中学校研究会に参加し、情報交換をする中で、コロナ禍での安心した学びの教育環境づくりを進めた。・生徒の母語対応および学習補助としての通訳を8日間延べ16時間、招聘することができ、学習意欲の向上につなげた。・他国(フィリピン)の文化に触れ、生活習慣の違い、言語の違いなどを学ぶことで、異文化理解を深めることができた。 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|